



本書より

おもしろ図像で楽しむ 近代日本の小学教科書

樹下龍児著

教科書の挿絵に描かれた顔にヒゲやメガネを落書きして先生に叱られたという人も多

いだろう。もちろん、教科書を飾る挿絵は、子供たちの理解を助けるために存在する。

著者が対象とするのは、明治・大正・昭和初期の教科書に載せられた挿絵である。教科書を取りあがる場合、記述された内容や教育に関心が向かうことが多いが、デザインに携わる著者は、図像への興味から、絵の役割や巧みさ、時代の変容を挿絵の中に見い

だす。丸い地球、空に浮かぶ気球、近代を支えた蒸気機関車、和服から洋服への変化や家族の団欒だんらん、あらためて挿絵を眺めていると、たしかに近代がそこに浮かびあがる。

たとえば、東西南北の方位を教えるために、両手を広げて朝日に向かって立つ子供の絵を添える。知らない事柄や見たこともない世界に目を開かせるのに挿絵は効果的だ。同じ絵柄でも、時代によるこまかな違いも見てとれる。(中央公論新社、1900円)